



カはどんな顔をしているの

カの顔からオス、メスがわかる

カの顔を顕微鏡などで見ると、巨大な二つの目と、太くて長い口器、もじゃもじゃと毛がたくさん生えた二本の長い触角が見えます。この巨大な目は、およそ500個の小さい目が集まって、一つの目を作っている、複眼とよばれるものです。広い範囲のものが、一度に見える目です。カの触角は、メスよりオスのほうが、はるかに毛が多く、この触角のちがいで、オス、メスが見分けられます。

カの口のしくみ

カの顔にあるストローのようなものは、口器とよばれるもので、管のような上くちびると、それをくるむ下くちびる、刺針からできています。刺針は、2本の大あご、2本の小あごなどの部分に分かれます。カは、ふつうは花のみつなどを吸っていますが、メスは産卵のために、動物の血を吸わなければなりません。

血を吸うときは、刺針の大あご、小あごで皮ふを破り、口器を血管につき立てます。

吸った血やみつは、管のようになった上くちびるの中を流れ、下くちびるは、弓のように曲がって口器を支えます。カは血を吸う前に、まず、血が固まらないようにするものが入ったつばを、相手の血管に注射します。これが、カにさされたときのかゆみの原因になります。（監修・中山 周平）

